



あなたのご意見 お聞かせください

「第2期丹波市障害者基本計画」(案)についてご意見を募集します

平成25年度から29年度までを計画期間として、市が取り組むべき障害者施策の基本的な方針を定めた「第2期丹波市障害者基本計画」の素案を作成しました。この素案について、みなさんからのご意見を募集します。素案は、生活支援課、市役所、各支所で見ることができます。また、市ホームページからも検索できます。
■募集期間 / 1月4日(金)～2月5日(火)まで
■生活支援課 (春日庁舎内)
☎ 74-0222 Fax74-3005

生涯学習施設整備方針(適正配置計画)(案)にあなただの声を!

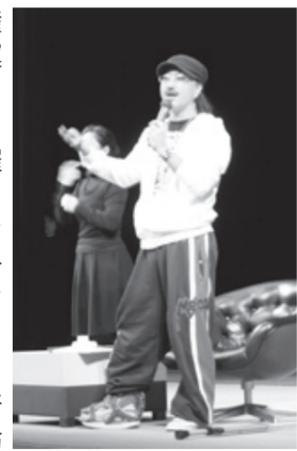
生涯学習の振興に必要な施設のあり方を研究し、今後の施設整備の方針(案)を作成しました。この素案について、みなさんからのご意見を募集します。素案は、市ホームページや市役所、各支所、各住民センターなどで見ることができます。
■募集期間 / 1月7日(月)まで
■生涯学習センター (氷上住民センター内)
☎ 82-0409 Fax82-4370

丹波市食育推進計画(第2次)(案)にあなただの声を!

国および兵庫県の食育推進計画を基本に、市民一人ひとりが生涯健康で健やかに暮らすことをめざして、食と農をキーワードにした「丹波市食育推進計画(第2次)(案)」を作成しました。この素案について、みなさんからのご意見を募集します。素案は、市ホームページや市役所、各支所、健康課で見ることができます。
■募集期間 / 1月15日(火)まで
■健康課 (氷上保健センター内)
☎ 82-4567 Fax82-5402

お互いの人権を大切にできるまちをめざして 「人権フェスティバル」を開催しました

市が推進している「人権文化をすすめる市民運動」の一環として、12月8日(土)、春日文化ホールで、人権フェスティバルが開催されました。



人権の尊さを熱く語る今村克彦さん

二教師で、現在は、ダンスチーム「関西京都今村組」グループ代表として活躍中の今村克彦さんが、「共育～共に育つということ」をテーマに、講演を行いました。イベントに訪れた約350人は、「親と子どもとのきずなの大切さ」について熱く語る今村さんの話を熱心に聞き入っていました。

幼稚園から小学校へ ～学びのつながりを意識した連携～

11月21日(水)、和田幼稚園・小学校で、幼稚園児が『教えて!～気持ちを伝えよう』、5年生が『グループ遊びを教えよう』をテーマに、交流活動を行いました。

この活動は、お互いの学校・園生活を理解し合うことで、学びのつながりを自然と意識し、行動できるようにするものです。

授業中の廊下を息をひそめ、足音を立てないように歩く園児や、園児のことを思いやりながら、より分かりやすい教え方を考える5年生の姿が印象的でした。



小学5年生と幼稚園児との交流の様子

ミッション「ALTを探せ！」 第1回イングリッシュパーティー

子どもたちに外国語に親しんでもらおうと「第1回イングリッシュパーティー」が、12月1日(土)、同日開催の「丹波竜フェスタ」会場内で行われました。

参加した小学生76人は、サングラス姿や販売ブースの店員に変装したALTを探し出し、英語で会話ができたら合格シールをもらうゲームに挑戦。子どもたちは、「ナイストゥーミーチュウ」とあいさつを交わし、ALTの質問に元気に英語で答えていました。



外国語指導助手(ALT)の質問に英語で答える参加者。小学校での英語学習の成果を発揮するよい機会となりました

古民家で田舎暮らし体験 青垣町神楽に「かじかの郷」 がオープン

田舎暮らし推進モデル事業として、神楽地域と県・市で進めてきた「空き民家を活用した田舎暮らし体験施設」が完成し、12月9日(日)、オープニング見学会が行われました。

市内に増加する空き家を地域資源として再生・活用し、田舎暮らし希望者の定住につなげようと、神楽自治振興会と地元菅原地区の住民らが主体となって、築120年の古民家を改修。お試し滞在ができる施設として生まれ変わりました。

見学会には、京阪神を中心に、20組の家族連れが参加。参加者には、地域の人たちから猪汁やつきたてのお餅が振る舞われ、囲炉裏を囲みながら田舎の味を堪能していました。

小学生が「軽トラ市」であきんどに挑戦

中央小学校の4～6年生の9人が、12月9日(日)に、成松商店街(氷上地域)で開催された「丹波甲賀の里軽トラ市」で、自分たちで仕入れや値付けをした野菜の販売ブースを初出店しました。

店頭では、「安いですよ」「おいしいですよ」と威勢のいい掛け声とともに、接客や販売に励んでいました。参加した垣本夢奈さん(11)は、「接客は思った以上に難しかったけれど、買ってくれたお客さんの笑顔がとてもうれしかった」と感想を話していました。



通りかかるお客さん呼び込もうと、威勢のいい声を張り上げていました



①施設名は「かじかの郷」。公募により決まりました②市外からの参加者と地元の人たちの交流のようす③地元の老若男女が総出で参加者をもてなしました④施設利用相談のようす。施設の利用申込は、一般財団法人神楽自治振興会 ☎ 87-5808 で受付中です